

令和 6 年 5 月 27 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01816

研究課題名（和文）農商務省「海外実業練習生」制度の総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study of the Ministry of Agriculture and Commerce's Overseas Business Trainee Program

研究代表者

木山 実 (KIYAMA, Minoru)

関西学院大学・商学部・教授

研究者番号：30340897

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、明治期半ばに開始され昭和初期まで30年余り続いた農商務省の海外実業練習生制度を包括的に研究したものである。本研究では、本制度の成立過程や展開、あるいはどのような学校の卒業生が多かったのかなど、制度の実態をできるだけ明らかにすることを1つ目の目的とし、さらに比較的多くの実業練習生を輩出した陶磁器業、水産加工業、織物業、糖業などに注目し、本制度がこれらの業界にどのような影響を与えたのかを明らかにすることを2つ目の目的とした。

本研究は練習生の人数や制度終焉を含めて、従来不明確であった本制度の実態をかなり究明でき、また本制度の影響は業界によって相当に異なっていたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は実業練習生制度の成立過程や練習生の人数、制度の終焉など、従来不明確であった部分を相当に明らかにした。また本制度が与えた影響は、業界によって相当に異なることも究明した。

経済史・経営史の分野では、実業練習生制度を断片的に捉え戦前期日本の経済発展や産業振興にポジティブな影響を与えたと想定してきたと思われるが、実業振興のための有為な人材を育成するという本制度の目的に沿った練習生は確かに存在したが、目的に沿わなかった人材も相当にいたことが本研究によって明らかになった。だが本制度は無駄に終わったわけでは決してない。本制度は戦前期の一握りの日本人に国際化という貴重な機会を与えたといえるのである。

研究成果の概要（英文）：The major purposes of our research were to clarify the actual situation of the Ministry of Agriculture and Commerce's Overseas Business Trainee Program and to investigate what kind of influence this program had on the industries of ceramics, fisheries processing, textile, sugar and so on which relatively produced many trainees.

We clarified the actual situation of this program uncertain until now including the number of trainees and the end of this program. Apart from that, we clarified the influence of this program considerably varied according to the industries.

研究分野：経営史

キーワード：農商務省 商工省 海外実業練習生 陶磁器業 織物業 水産加工業 糖業 国際化

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「海外実業練習生」制度は農商務省が明治 29 (1896) 年に設け、昭和初期まで 30 年余り続けられたとされる制度である。それは有為な人材を選抜して補助金を与えて海外に渡航させ、海外の渡航先で「練習」(商店や工場での研修、あるいは学校や大学に入学など)して研鑽を積み、日本経済の発展や実業振興に資する人材を育成しようとするものであった。実業練習生に選抜され、その後、名を成した人物としては日本の自動車産業の黎明期に活躍した橋本増治郎、冷凍食品事業を日本に本格的にもたらした葛原猪平、星製薬株式会社および星製薬商業学校(現在の星薬科大学につながる)の創立者星一、あるいは美術界では高村光太郎や横山大観など多数にのぼる。

実業練習生制度と美術界との関係については、田島奈都子氏(青梅市立美術館学芸員)による一連の先駆的な研究があるが、日本の実業振興や経済発展に貢献した人々については、経済史・経営史の分野でも上記の橋本増治郎や葛原猪平などに断片的に言及されるだけで、この制度の実態については不明確な部分がかかなりあった。

本研究の研究代表者となる木山実は、2018 年 5 月開催の社会経済史学会全国大会(於、大阪大学)にて「農商務省『海外実業練習生』制度と貿易商社」と題する研究発表を行った。それは木山の勤務校である関西学院大学の図書館所蔵の大正 2 (1913) 年版「海外実業練習生一覧」という史料に掲載されている明治末までに海外に実業練習生として派遣された 451 名について、その出身校や本制度が貿易商社業界に与えた影響などについて論じたものであったが、その報告の質疑応答の席で高橋周(東京海洋大学)が「東京海洋大学には海外実業練習生となった人々に関する史料が多く残されている」旨の発言をした。これを受けて、木山は 30 年余りにわたる海外実業練習生制度の全般について、高橋や、その他の業界史の専門家を交えて、共同研究が行えないか模索した。そして科研費に申請したところ、幸いにも採択され、われわれは令和 2 (2020) 年に活動を開始した。

2. 研究の目的

本研究では、主に下記の 2 件を研究目的とした。

(1) 農商務省「海外実業練習生」制度の実態解明

本制度の成立過程、実業練習生がどのように選抜されたのかなど制度運用、実業練習生に選抜された者の出身校、実業練習生に選抜された者の人数、本制度がいつどのようにして終焉を迎えたのか等、従来不明確であった部分を明らかにすること。これは研究代表者の木山が担当した。

(2) 本制度が各業界に与えた影響に関する研究

海外実業練習生を多く輩出した業界としては、陶磁器業、水産加工業、機械工業、美術界、糖業などがあったが、本研究では海外実業練習生制度が各業界にどのような影響を与えたのか(あるいは与えなかったのか)について研究を進めた。これについては、水産加工業史に詳しい上述の高橋周、および陶磁器業史に詳しい大森一宏(駿河台大学)に研究分担者として加わってもらい、研究代表者の木山も上記の研究目的(1)と並行して、この研究目的(各業界に与えた影響)について研究を進めた。その後、糖業史に詳しい藤田幸敏(福井工業大学)にも研究分担者に加わってもらい、さらに本研究会でゲストスピーカーとして織物業について報告してもらった橋野知子(神戸大学)にも、本研究会と連携して織物業に関して研究を進めてもらうことになった。

3. 研究の方法

(1) 国内外での史料調査と史料収集

本研究のメンバーは東京の国立国会図書館、東京海洋大学図書館(水産講習所出身者関係の史料収集)、三井文庫(三井物産関係の史料収集)、京都府立京都学・歴彩館(京都の陶磁器関係の史料収集)、各地の公共図書館(各地の学校の「学校一覧」や同窓会名簿などの収集)などでの史料収集を計画したが、本研究前半期は新型コロナウイルスのために、ほとんど史料調査ができなかった。しかし新型コロナウイルスの流行がやや収まる兆候がみられた後には、精力的に史料調査ができた。

研究代表者の木山は 2023 年 8 月に実業練習生の最多の渡航先国であったアメリカ合衆国のカリフォルニア州で史料調査を行うとともに、アメリカ人の歴史研究者と情報交換を行った。

(2) 本研究メンバーによる研究会

本研究では定期的に研究会を行うよう計画していたが、本研究開始と同時に新型コロナウイルス流行による行動制限がかけられたため、研究会はすべてオンラインで行うことになった。本研究開始当初はもっぱら研究代表者の木山が研究報告を行っていたが、その後ゲストスピーカーに報告を依頼して、実業練習生制度に対する理解を深めた。また上記による史料収集で研究成果が得られた研究分担者も順次報告を行った。

4. 研究成果

研究代表者の木山は上記「研究の目的-(1)」(制度の実態解明)の一環で行った海外実業練習生リスト(氏名・渡航先・練習内容・出身校・付随情報など)をExcelファイルに入力する作業を進め、そのリストがほぼ完成した時点で、研究分担者にそのファイルを提示し、各研究分担者はそれぞれが得意とする業界を対象に上記「研究の目的-(2)」の作業を行った。本研究メンバーは上述したオンラインによる研究会で研究成果を出し合い、最終的に2023年12月3日に開催された経営史学会全国大会(於、熊本学園大学)において、メンバー全員で「農商務省『海外実業練習生』制度とは何だったのか」と題するパネル報告を行った。

そのパネル報告では研究代表者の木山がまず実業練習生制度全般の概要について説明を行うとともに問題提起を行い、研究分担者の大森は陶磁器業に関連して「陶磁器業界 - 藤江永孝の留学と西欧技術の導入」と題する報告を、高橋は水産加工業に関連して「水産業界 - 水産講習所(伝習所)出身者たちの足跡」と題する報告を、藤田は糖業界に関連して「製糖業における海外実業練習生制度」と題する報告を行った。当研究と連携して研究を進めた橋野も織物業との関係について報告する予定であったが、橋野は体調不良で当日欠席したので木山が報告内容を代読した。そのパネル報告では、コメンテーターを担当いただいた菅山真次(東北学院大学)およびフロアからたいへん有益なコメントを頂戴した。

このパネル報告とは別に、研究代表者の木山は、下記のような論文も発表した。

- (1) 「戦前期商社業界における学閥形成」(大島久幸と共著)慶應義塾大学『近代日本研究』第37巻、2021年2月、pp.35-80。
- (2) 「三井物産の豪州上陸と羊毛バイヤーの育成」(第3章第1節)、「高島屋飯田の豪州上陸」(第4章第1節)若林幸男・大島久幸・山藤竜太郎編『国際人的資源管理の経営史』(日本経済評論社、2022年1月)。
- (3) 「商工省「貿易通信員」制度の成立と展開」関西学院大学『商学論究』第70巻第1・2号、2022年12月、pp.55-73。
- (4) 「創業期の瑠珈鉄器株式会社 - 技術者にも注目して - 」(大阪経済大学日本経済史研究所編『歴史からみた経済と社会: 日本経済史研究所開所90周年記念論文集』思文閣、2023年11月) pp.459-482。
- (5) 「科学的管理法と海外実業練習生」関西学院大学『商学論究』第71巻第4号、2024年3月、pp.67-88。

研究分担者の大森も下記のような論文を発表した。

- (1) 「戦前期の京都における陶磁器業の展開過程」駿河台大学『駿河台経済論集』第33巻第1号)2023年9月、pp.29-43。

また研究分担者の高橋は2023年6月4日に、塚田明(三重大学)を研究代表者とする科研費研究「19世紀以降の東アジア世界における海藻の生産・流通・消費に関する総合研究」(基盤研究A、課題番号:22H00018)の研究会(於、東京海洋大学)で「東京海洋大学の系譜と海藻に関する初期の教育・研究」と題する研究報告を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 木山実	4. 巻 第70巻第1・2号
2. 論文標題 商工省「貿易通信員」制度の成立と展開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西学院大学『商学論究』	6. 最初と最後の頁 55-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木山実・大島久幸	4. 巻 37
2. 論文標題 戦前期商社業界における学閥形成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近代日本研究	6. 最初と最後の頁 35-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 若林幸男・大島久幸・山藤竜太郎（編）秋谷紀男・市原博・木山実・藤村聡・谷ヶ城秀吉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 292
3. 書名 国際人的資源管理の経営史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 周 (Takahashi Chikashi) (10339731)	東京海洋大学・学術研究院・准教授 (12614)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大森 一宏 (Omori Kazuhiro) (90247594)	駿河台大学・経済経営学部・教授 (32411)	
研究分担者	藤田 幸敏 (Fujita Yukitoshi) (30238589)	福井工業大学・環境情報学部・教授 (33401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関